



明治維新と文明開化

(<http://jugyo-jh.com/nihonsi/>)

明治維新とは

19世紀後半の日本で、江戸幕藩体制が崩壊し、代わって近代統一国家とこれを支える明治新政権が形成されていった一連の政治的社会的変革過程をいう。

明治維新の内容とその背景

(1)江戸幕藩体制の崩壊・廃止

(2)近代統一国家＝中央集権統一国家・近代天皇制国家の創出・形成→「国民国家」形成

(3)日本資本主義化の「出発点」→「本格化」
となった政治的、経済的、軍事的、社会的、文化的な
変革の総称

<背景>

①幕藩体制（江戸時代）の内部矛盾・国内的成熟

②開国＝列強・世界資本（「世界＝資本」）の外圧

③討幕運動・尊王論のひろがり・公議政体論の登場

明治維新の始期

(イ)天保期(1830~43)、とくに大塩平八郎の乱(1837)、幕府の天保の改革の失敗(1843)。

⇒ 内的要因重視…経済発展・階級関係の変化

(ロ)ペリー来航(1853)または通商条約の締結(1858)

⇒ 外的要因重視…世界資本主義への包摂・民族的危機

(ハ)元治・慶応年間(1864~68)の倒幕運動

(ニ)寛政期(19世紀初)、ラクスマン来訪(1792)と松平定信の改革

⇒ 世界史段階に注目、幕藩制再定義=鎖国論・尊王論

明治維新の終期

(イ) 廃藩置県 (1871) … 中央集権国家・藩閥体制の成立

(ロ) 西南戦争 (1877) … 士族の反政府運動の終焉。以降は、統一国家建設と資本主義化をめぐる明治政府と民権運動の対抗が中心に。「幕末の三傑の死」。

(ハ) 秩父事件 (1884) … 封建領主対封建小農民の関係が、資本主義社会の基本的階級対立である寄生地主・資本家対小作人・賃労働者の関係へ転換する出発点。

(ニ) 大日本帝国憲法の発布 (1889) … 天皇制国家の機構上の整備・確立。経済でも原始的蓄積が進み、寄生地主制と産業資本主義の成立の土台がほぼ完成。

(ホ) 日清戦争 (1894～95) 立憲政友会の結成 (1900) … 国民国家の完成。日本語・学校教育の整備、民党の体制内化＝天皇制国家の一体化。

I, 幕藩体制、その崩壊・廃止

①日本を、幕府や「藩」などの封建領主が分割統治した体制（狭義）

⇒中央集権化の進行＝「版籍奉還」→「廃藩置県」

②幕府中心の政治⇒「大政奉還」→「王政復古」→江戸開城

③地方分権政権としての「藩」⇒「版籍奉還」→「廃藩置県」

④江戸時代の政治, 社会, 経済, 文化システムの総体（広義）

＝身分制・鎖国・コメの経済（石高制）・村請制・流通体系・・・

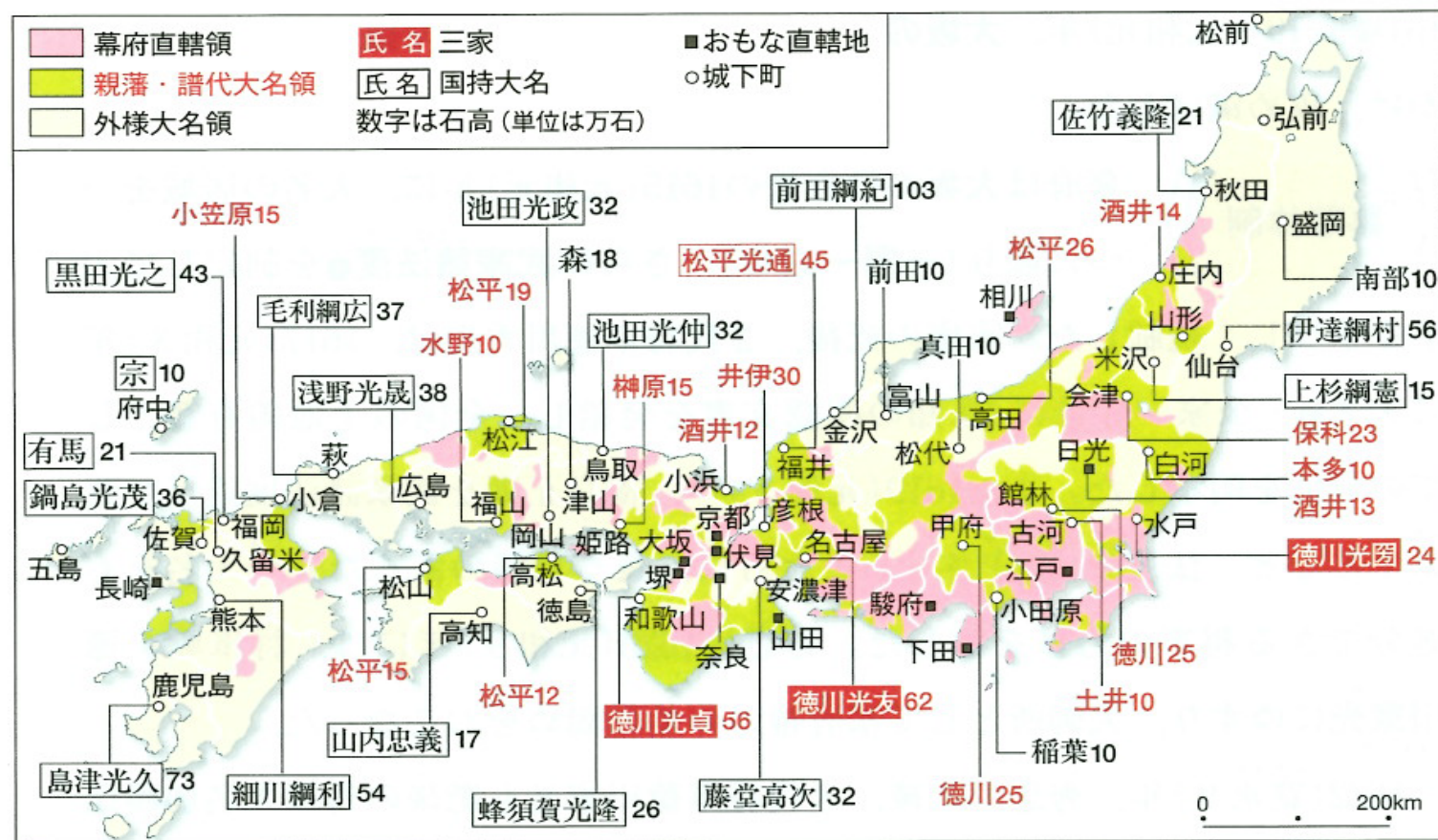
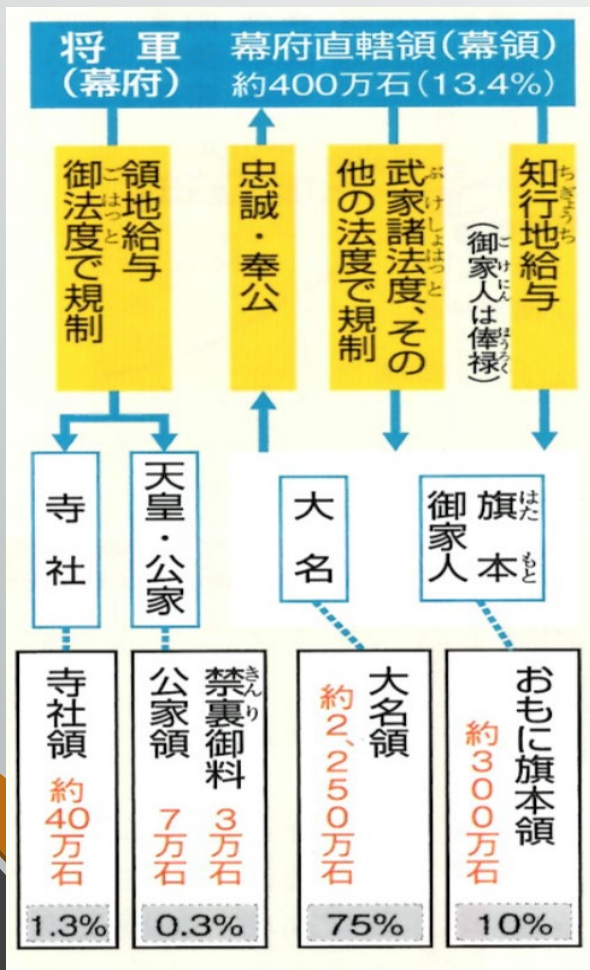
⇒四民平等・国民皆兵・開国・地租改正・文明開化・・・

⇒江戸時代は「鎖国」と「二つのカベ」で分断された時代

近世=二つのカベに分断された時代「ヨコのカベ」

幕藩体制=領主ごとで分断された日本

幕領・旗本領+大名領(藩)+禁裏・公家・寺社領など



近世＝二つのカベに分断された時代「タテのカベ」 「年貢だけを払えば百姓ほど楽なものはない」

- 身分制・「鎖国」の下での「平和」

身分ごとに役割が定められる社会

「百姓」「町人」は政治・軍事面では「客分」でいけばよい

→ 「分をわきまえた」生き方によって実現する「平和」

「士」の義務…人びとを守り「仁政」を実現すること

安全保障（賊からの防衛）インフラ整備・飢饉対策

- ムラの生活…助け合い？おせっかい？

「村請制」＝村でまとめて年貢を払う。村役人への責任重大。

→ 村人の協力と連帯責任が、領主支配・年貢搾取を容易にする

江戸時代＝平穏で平和。だが変化の少ない時代

江戸時代とくに「幕末」をどう見るのか。

情愛の深い社会

私にとって重要なのは在りし日のこの国の文明が、人間の生存をできる限り気持ちのよいものにしようとする合意と、それにもとづく工夫によってなり立っていたという事実だ。…それは情愛の深い社会であった。

真率な感情を無邪気に、しかも礼節とデリカシーを保ちながら伝え合うことのできる社会だった。当時の人びとに幸福と満足の表情が現れていたのは、故なきことではなかったのである。

(渡辺京二『逝きし世の面影』)

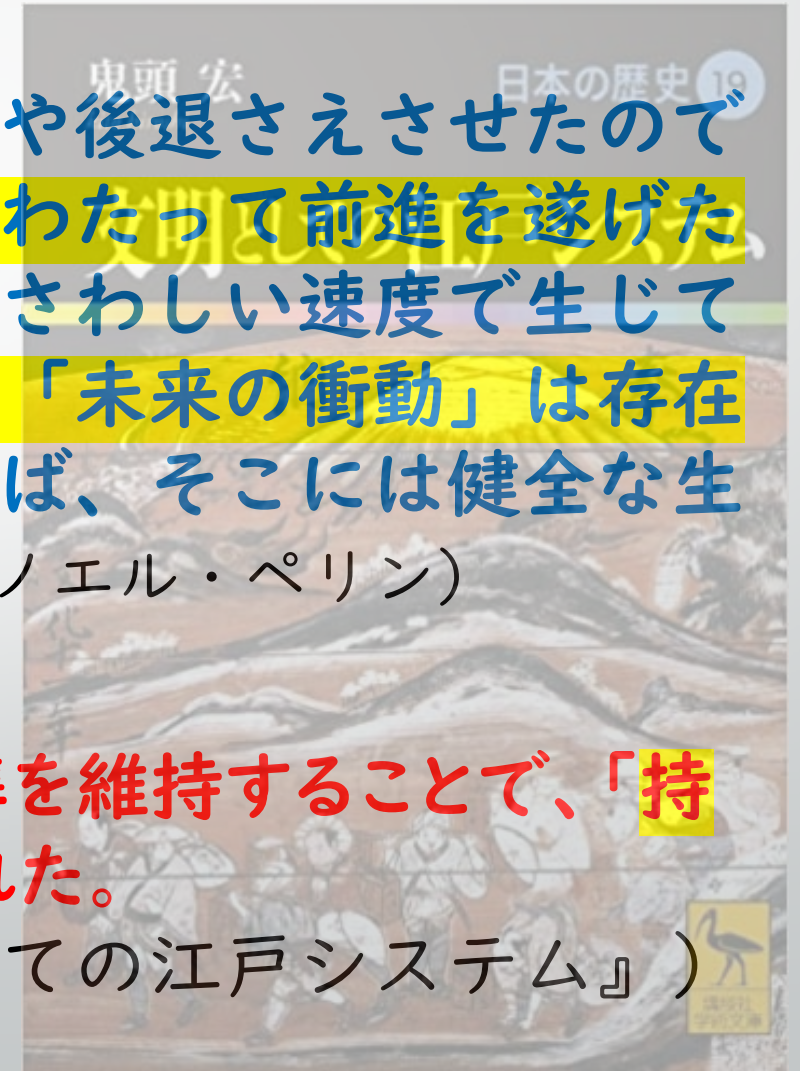


江戸時代とくに「幕末」をどう見るのか 成熟した循環型社会・「徳川の平和」

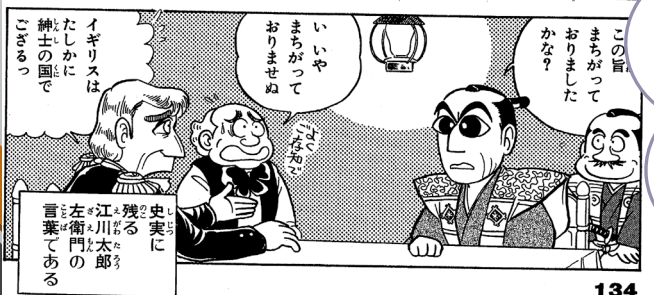
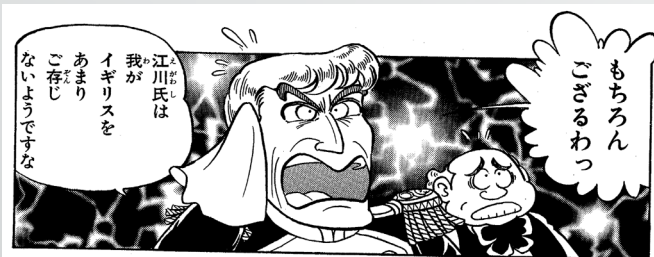
日本人は兵器の発達を完全に止めた。いや後退さえさせたのである。同時に…兵器分野以外の多方面にわたって前進を遂げたのである。…それは人間の精神によりふさわしい速度で生じていた。…急激な技術進化の生むいわゆる「未来の衝動」は存在しなかった。徳川日本の全体をみわたせば、そこには健全な生命力が息づいていたことが知られる。（ノエル・ペリン）

封鎖システムのもとで比較的高い生活水準を維持することで、「持続可能な開発」・「循環型社会」が実現された。

（鬼頭宏『文明としての江戸システム』）



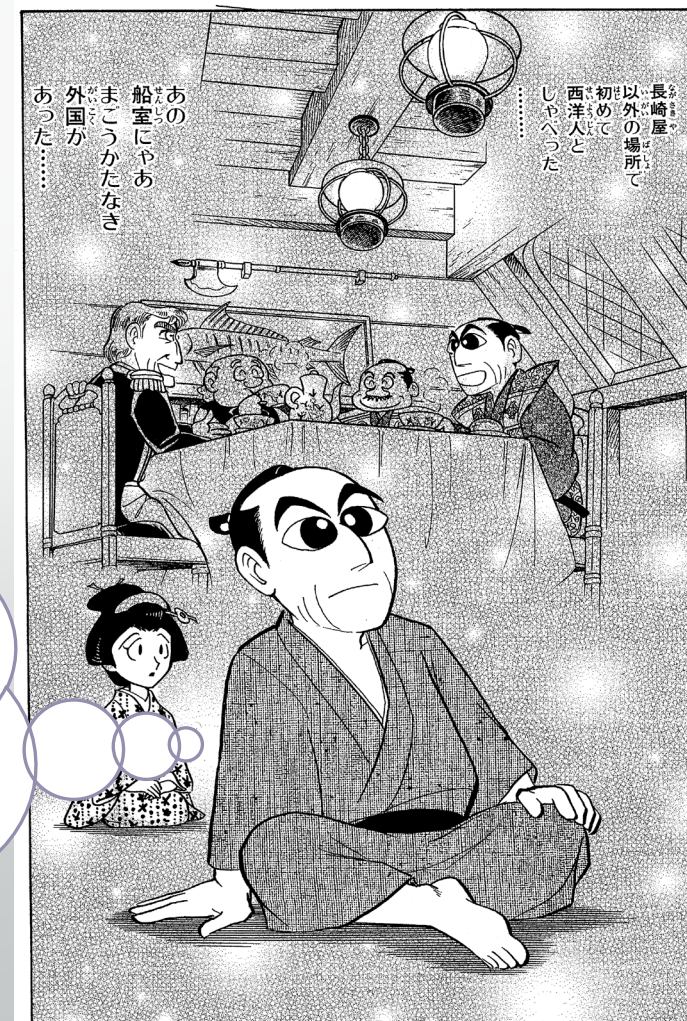
江戸時代をどうみるか。不自由の自覚と閉塞感 先覚者（江川英龍）の嘆き（みなもと太郎「風雲児たち」）



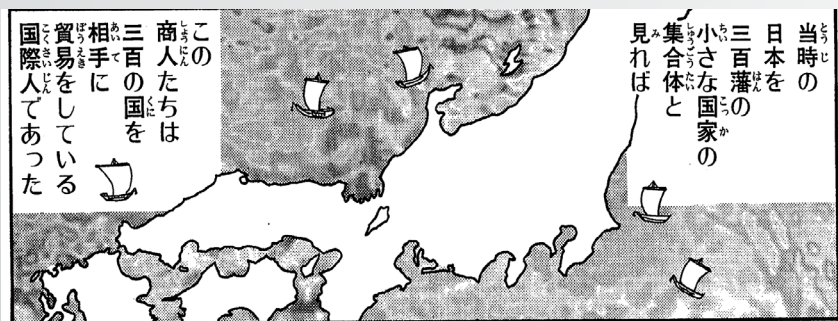
134

ならば話は早い。
互いに法律を守って
話し合いがしとうござる。

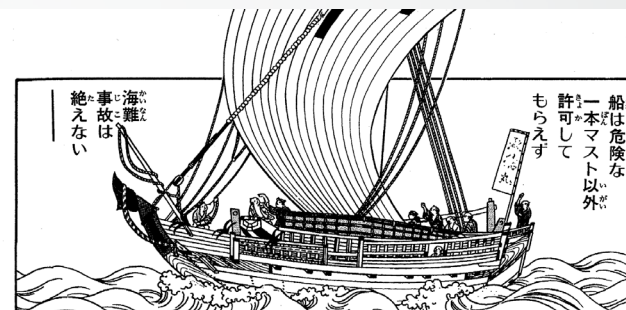
あの船室にやあ
まがうかたなき
外国があった。



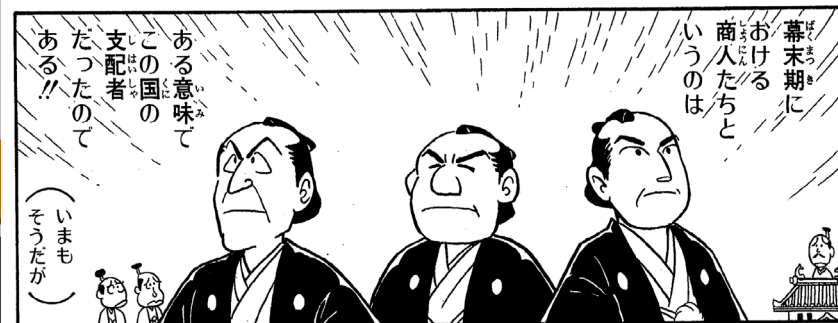
江戸時代をどうみるか。カネと情報はもっていたけれど 商人たちの嘆き (みなもと太郎「風雲児たち」より)



船は危険な一本マスト以外許可してもらえず。



さらに問題なのは、大砲を積んだ西洋船である。



そもそも幕府に何か将来の展望があるのかッ



幕藩制・身分制のもとで生きる
二つの「カベ」で分け隔てられた人びと

ヨコのカベ＝「幕藩体制」（＝封建制）

人びとは藩という「小国」によって区分されていた。

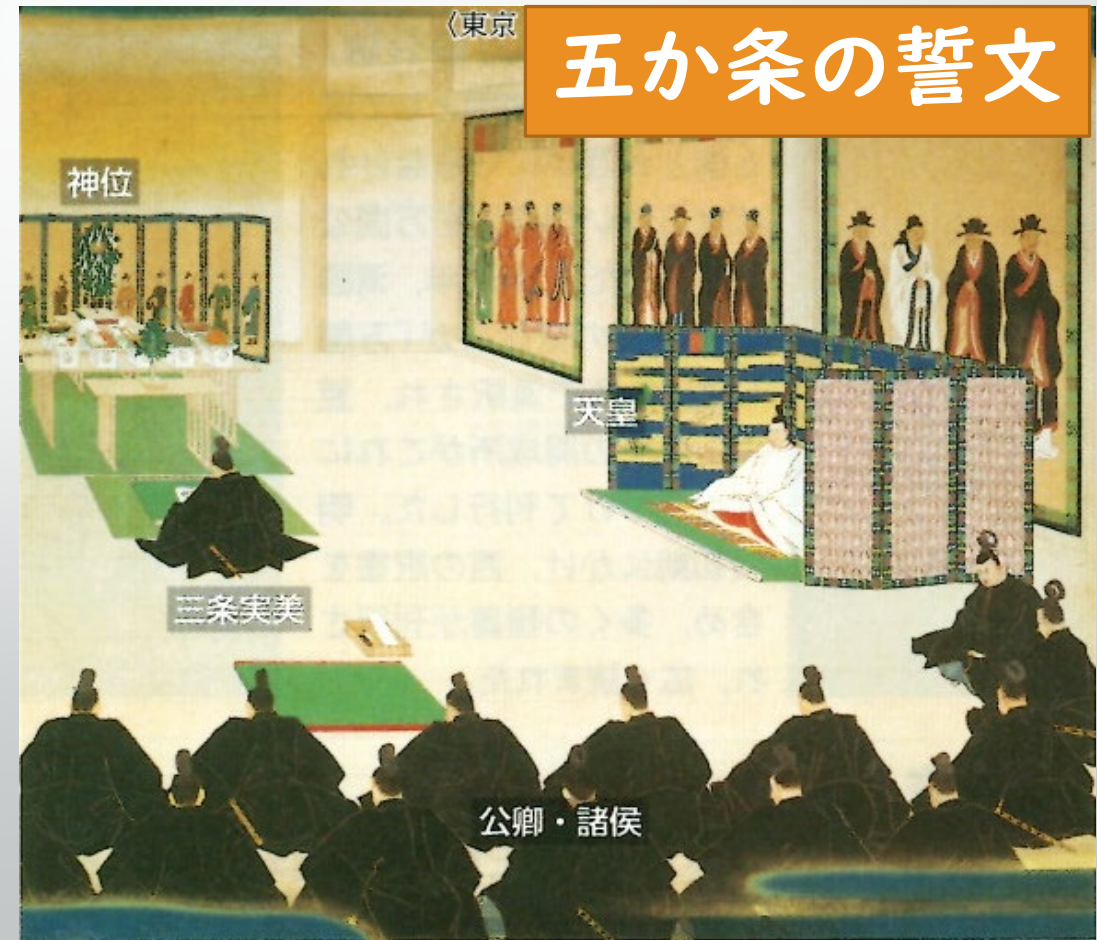
タテのカベ＝「身分制度」

「分」をまもり、共同体のルール内で生き死ぬべきもの

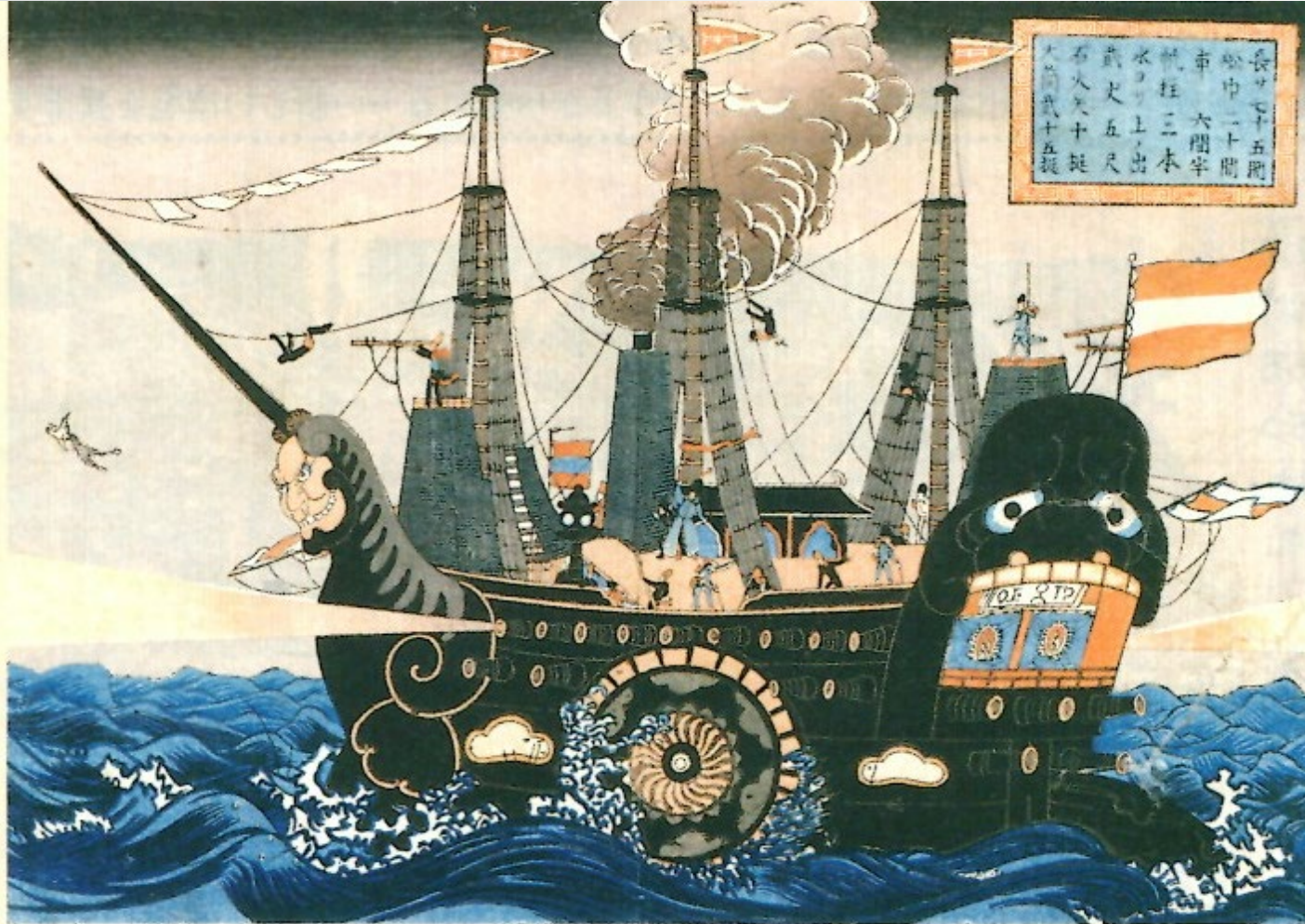
「差別は当然」「平等は許されない時代」でもある。

→「幕藩制の解体」とは「鎖国」と「二つのカベ」を壊し「国民」化の方向に進むこと

Ⅱ,幕府の崩壊と、天皇制国家の成立



維新の「引き金」としての「開国・開港」



明治維新の「引き金」としての 「開国・開港」の意味

「開国」＝諸列強の登場

- 「国力の差」を実感＝軍事→産業→ソフトパワー
- うまく対応せねば「日本が呑み込まれる！」との危機感（攘夷）
 - 日本全体が「強迫神経症」状態に
- 「皇国」というプライドを傷つけられた「屈辱感」「復讐心」

幕末の課題

「危機」を乗り越え「屈辱」を晴らすため
絶対必要な「挙国一致」をどう作るのか

- 挙国一致のシンボルとしての天皇（尊王）
- 幕府を中心にしてまとまるのか、もはやムリなのか（幕末の政局）

「万国対峙」を実現するために（Ⅰ）

幕府から権力を奪う

「危機」を乗り切り「屈辱」を晴らし、「挙国一致」を図る上で、幕府が障害（67末西郷・大久保・岩倉らの認識）



幕府打倒のクーデタ（王政復古）の実施（68）

「復古」＝天皇の権威を利用

幕府の失策＝鳥羽伏見の戦い（68）

新政府に暴力の行使＝慶喜追討令のきっかけを与える

→ 戊辰戦争の発生（68～69）

「官軍」が「賊軍」（旧幕軍）と戦うとの大義名分が成立

研究の到達点

大政奉還・王政復古時の指導者の認識は

新政府の指導者が新たな秩序について明確な設計図をもっていたわけではない！

<存在していた大まかな合意>

全国を天皇の下に統一、「公議」を体現する国政樹立
身分を問わず人材を登用する

<一部のものの予測>

「近い将来には中央集権～日本の完全統一（「廃藩置県」）が必要」かも

戊辰戦争の継続

東征軍参謀
西郷隆盛

旧幕府陸軍総裁
勝海舟(義邦)

次々と押し寄せる課題

バラバラな諸藩

天皇の姿を変える

列強との関係
攘夷か？開国か？

民衆の向背

幕府から権力は奪ったけれど 次々と押し寄せる課題

①内戦（戊辰戦争）への対応

戦闘指揮、諸藩からの動員と軍隊編成、食料や兵器の調達と輸送

②半独立国としての性格を維持する諸「藩」への対応

③「年貢半免」「世直し」を叫ぶ百姓らの沈静化

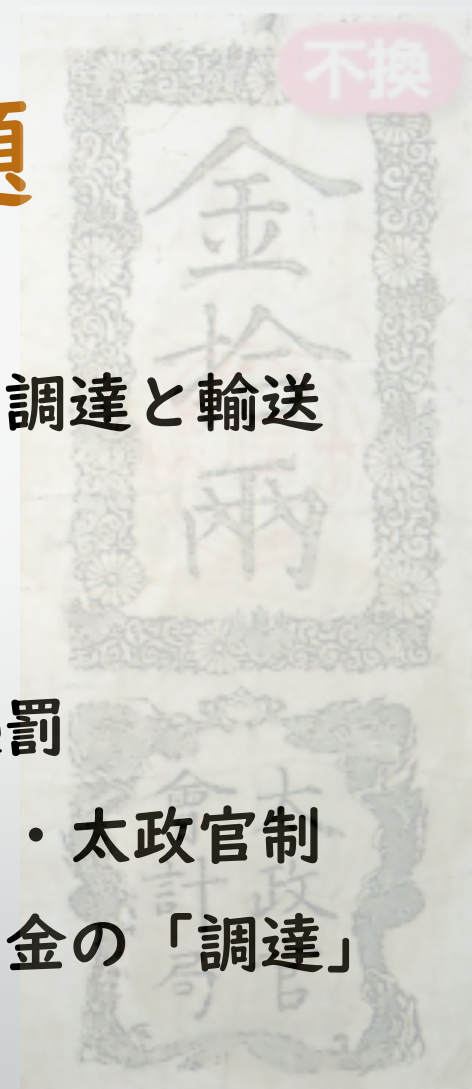
④秩序・統治の回復→旧「尊王攘夷」派などの逮捕・処罰

⑤幕府支配に変わる統治機構の立ち上げ→府・県の設置・太政官制

⑥財源確保→太政官札の発行。金融・商業資本からの用金の「調達」

⑦諸列強の信頼と承認の確保

→こうした難局に立ち向かう中心＝「維新官僚」



しかし、新政府の実情は・・
権力は奪ったが、将来のプランはない！

大名や公家たちが集まり、タテマエはいうが

→戦争指揮・外国対応・財政・民衆やテロリスト対応など、緊急の案件が山積

大久保・木戸・西郷
岩倉・三条
大隈・伊藤・井上・山県



**結局は、事態を掌握でき、構想力と実行力の
あるリーダーに「仕事⇒権力」が集中する。**

その命令は「**天皇の意思**」として正当化される。

明治国家の方向性を決めた二つの事件

神戸事件…1868年1月、岡山藩兵と英・仏兵との間の紛争。対外関係の悪化を恐れた政府は、**各国公使に陳謝**し、家老の家来滝善三郎に責任をとらせて自刃させた。

堺事件…1868年3月、堺警備の土佐藩兵とフランス水兵との衝突事件。政府は**この事件を陳謝**し、関与した土佐藩士を切腹させた。

→井上勝生の評価…旧幕時代とは異なって欧米の要求を先取りした過酷な処刑を進んで行い、**欧米の文化に同化する（文明を取り入れる）道**を歩き始めた。

パークスは、欧米を手こずらせた**旧幕府との関係より「ずっと良い」**と夫人に知らせている。（『幕末・維新』）

「五か条の誓文」

1868年3月、明治天皇が公家、諸侯や百官を率いて天地神明に誓約する形で発表した維新政府の基本方針。

もとは天皇と諸侯が互いに向かい合って誓い合う形だった



欧米型近代国家をめざす宣言

五か条の誓文

広く会議を興し万機公論に決すべし
上下心を一にして盛に経綸を行ふべし
官武一途庶民に至る迄各其志を遂げ人心をして倦まざらしめんことを要す
旧来の陋習（ろうしゅう）を破り天地の公道に基くべし
智識を世界に求め大に皇基を振起すべし

欧米の文明（「智識」）を摂取して、天皇制近代国家の基礎（「皇基」）をつくるという開化方針（井上勝生）

江戸時代の伝統社会を「陋習」とみなし、未開とする欧米の見方にみずから同調した。（井上勝生）

五か条の誓文がめざす 「新しい日本」のあり方

「日本は欧米諸国より劣っており古くさいルールや考え（「陋習」）があふれている。世界の知識を学び、本来のあるべき道を考え、日本の発展を図らなければならない」



①天皇を中心となって政治を行う。

→これが日本古来のやり方（復古）

②攘夷主義はとらず、積極的に開国し、外国文明を取り入れる。

維新政権の出した結論は！

欧米型近代国家をめざす！＝「富国強兵」

→これこそ「神武創業」への復古と強弁

- ・外交＝「万国公法」体制の受容→「条約改正」の実現
- ・制度＝西洋型の法体系、経済・財政制度導入＝「地租改正」など
- ・軍備＝国民皆兵の近代的「国民軍」創出
- ・産業の「近代」化・インフラの整備＝「殖産興業」
- ・近代国家に適合する「国民」の創出
- ・文化＝欧米文化の輸入＝「文明開化」
→伝統的・民衆的文化の否定（「陋習を破」る）

天皇の意思と「神代」への
「復古」を名目とする。
おかしくなったのは、「から
ごころ」や仏教のせい。

強力な政治指導部確立と国家目標の定着が必要

IV, 廃藩置県＝中央集権国家への道



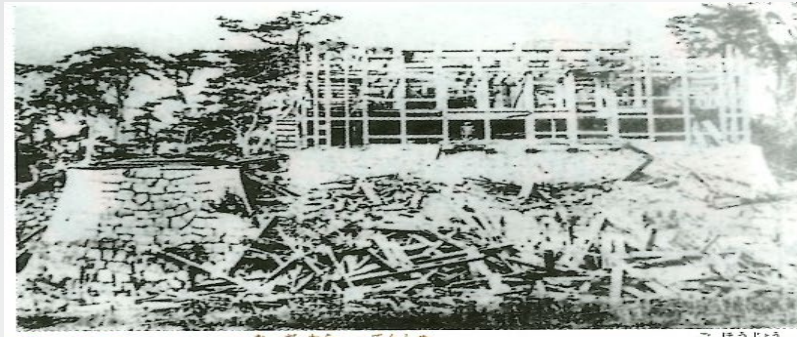
破壊される小田原城



陸軍施設（鎮台）となった熊本城

廃藩置県とは

明治4年(1871)
明治政府が**中央集権化を図るため**、
全国261の藩を廃
して府県を置いた
こと。
全国3府302県が
まず置かれ、
同年末までに3府
72県となった。
(デジタル大辞泉)



解体される小田原城天守



新たにおかれた府県

戊辰戦争の結果＝「藩」の弱体化

- ① 諸「藩」の財政危機は致命的に
- ② 「藩」政に戊辰戦争に参加した下級武士らが参入
- ③ 藩の主体性は失われ「府・県」同様の地方機関に
→ 家老などの廃止、新政府の定める職制に統一
- ④ 版籍奉還(1869)＝土地・人民を監督する地方機関に
→ 旧藩主は「知藩事」という地方官僚に
→ 藩士との上下関係は解消される。

「半独立国」としての「藩」の解体が促進される。

廃藩置県への道→予想外の展開に

廃藩置県直前の状況～危機的状況に

- ① **百姓一揆**が激化…内容の過激化竹槍の使用や放火など
- ② **武士などの抵抗**…奇兵隊の反乱、テロ・反乱など
- ③ **旧藩などの統治能力の低下**・中央からの指示の不徹底
大藩での急進的改革…高知・和歌山など
- ④ 藩財政の破綻→あいつぐ「廃藩」の申し出
- ⑤ 政府官僚と出身藩の関係調整の困難さ…旧藩主への配慮
- ⑥ 「公議政体論」志向の根強さ

「手をこまねいて瓦解するぐらいなら、藩を廃止し中央の命令が末端まで届く中央集権的な日本につくり変えよう。」

日本史上最大級の変革

「廃藩置県」＝中央集権国家に

- ①知藩事（＝旧藩主）を全員解任、東京へ
- ②県の設置 名が変わる→半年後に整理統合（302→72）
- ③中央から県令を派遣。

<結果>

- ①県令のもとで、**中央政府に忠実な統治→改革**を強行
中央の命令は**個々の人民へ直接届く**ようになる。
- ②政府への対抗軸が消滅＝公議政体論の基盤の消滅
- ③薩長土肥出身者による藩閥政治が進行。

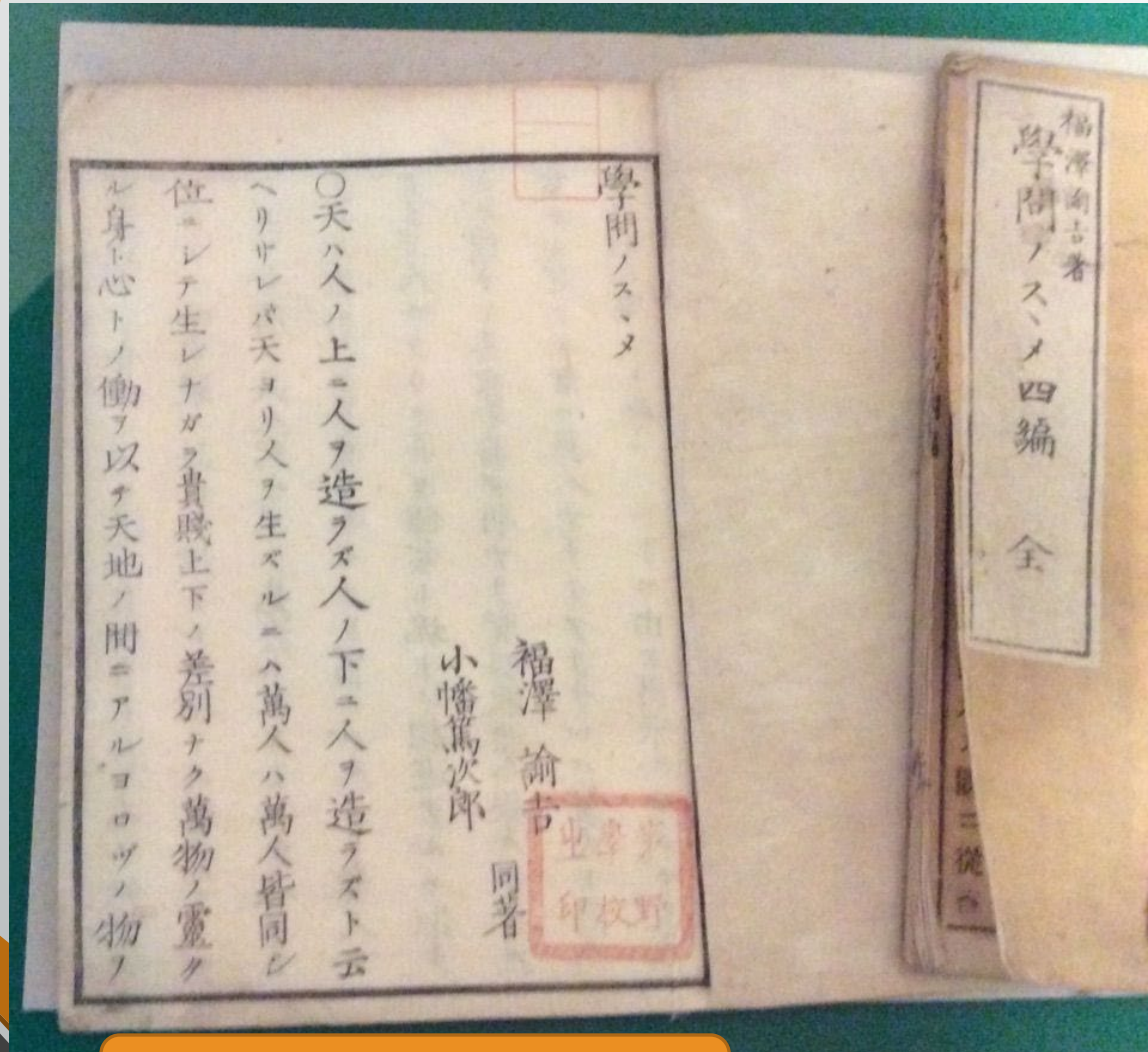
廃藩置県の意味

人びとにとっての廃藩置県

- ①藩主…「華族」の身分と、旧藩の収入の1/10のお金をもらい、仕事もせずに暮らしていける。
- ②武士…「会社と仕事」を失う。給料も…（**秩禄処分**実施）
- ③庶民…隣藩とひとくくりとなり、訳の分からん「よそ者」が強引な政治＝改革実施→**新たな改革としての「地租改正」**

幕藩体制の下で、人々は藩という小さな国や地域に分断され、その枠の中で、生き、働き、考え、死んだ。廃藩置県はこの基礎である「ヨコ（地域）のカベ」を破壊した。

Ⅴ,「四民平等」～「国民」の形成へ



学問のすすめ



【四民平等】「天地の秤にか
けて人民に上下の別なき図」
と、四民平等を主張している。

身分制の克服＝「タテのカベ」の撤廃

福沢諭吉『学問のすすめ』より

「天は人の上に人を造らず人の下に人を造らず」と言えり。

されば天より人を生ずるには、万人は万人みな同じ位にして、生まれながら貴賤上下の差別なく万物の霊たる身と心との働きをもって天地の間にあるよろずの物を資とり、もって衣食住の用を達し、自由自在、互いに人の妨げをなさずしておのおの安楽にこの世を渡らしめ給うの趣意なり。



福沢諭吉

「タテのカベ」の排除・幕末には 身分制からの解放をめざす動き

「身分のカベ」を打破しようとする動き

- ・ 幕末の志士…外様藩出身・下級藩士や郷士・足輕・中間
百姓身分である豪農、町人…。

- ・ 奇兵隊・新選組など…身分を脱出し武士をめざす

身分制を超える動き = 「一君万民」思想など

- ・ 国学・水戸学…「すべての人間は天皇の民である」
- ・ 能力主義…学問とくに、実学・洋学の重視
- ・ ナショナリズム…「日の本の危機」という危機意識
- ・ 私塾・道場、俳諧・旅絵師など

「タテのカベ」の排除

「四民平等」＝身分制の「廃止」

①居住・職業・結婚など身分制を特徴づける制限廃止

- ・ 明治2年…農工商を「平民」に。姓を名乗ることを承認
- ・ 明治4年…「解放令」＝「えた・非人」という呼称の廃止。平民化
- ・ 明治5年…田畑永代売買の禁令などの決まりを廃止

②身分制度の再編

- ・ 「皇族」＝天皇の一族 「華族」＝かつての貴族と大名
- ・ 「士族」＝それまでの武士。「俸禄」を受給

→ 秩禄処分や廃刀令などで特権を失う。特権は族称のみに

四民平等＝「均質な国民」の形成

「四民平等」＝国家が国民を直接掌握

「身分」「村」といった枠組みを撤廃

戸籍・土地台帳・里程標などを整備

「職業の自由」「移動・職業選択の自由」

→身分・職能や地域集団の慣行的特権＝保護もなくす

『文明国の国民』化＝「身分的な文化」の脱却

→ひとびとの意識改革をすすめる

仇討ち、村・寺社の自治的裁判権、神官の世襲、各種の家元制

女人禁制などを否定

旧えた身分は明治になってから生活の方が苦しくなる！

士族の解体⇒秩禄処分(1873)

1869 版籍奉還…武士を「士族」(華族・卒族)身分
「秩禄」を給与

1872 徴兵勅諭と徴兵令…「軍人」という特権を剥奪

1873 家禄奉還の奨励…一時賜金・秩禄公債を交付

1876 廃刀令=士族としての特権の剥奪

1867 秩禄処分…秩禄を全廃、金禄公債証書交付
領主権を有償廃止、特権は族称のみに

しかし「士」としてのプライドや文化的資源は残る

「四民平等」の限界＝明治維新の限界

①身分制度を撤廃したのではなく、新たな「身分」に再編成した。

⇒皇族・華族・士族

②「部落問題」の発生

⇒旧身分制度と近代社会の矛盾が結合

③庶職（官吏・軍人・警官・教員）は士族出身者が多数を占める

⇒身分エリートから学校エリートに、平民もこれに追随

④「『家』の観念」や「男尊女卑」の風習など身分制的倫理（とくに「武家の道徳」）が残存⇒民法などに取り込まれる

「四民平等」…多くの保留つきではあるが、身分という「タテのカベ」を解消する。こうして国民国家の構成員たる「国民」をつくりだす。

「タテのカベ」排除の背景 近代軍と身分制＝克服すべき課題

近代戦における軍隊＝指揮官の命令一下、集団として行動することが求められる。

→学校の役割＝「体育」・行進訓練・各種行事

→「領主軍」＝武士では困難。身分制度と矛盾

→奇兵隊に見られる「国民軍」の優位

実力主義＝門閥・家柄の原理をこえた軍事組織

→新撰組の強さの根拠でもある

⇒1872徴兵告諭＝国民皆兵をめざす⇒1873徴兵令を公布

徴兵告諭¹⁸⁷²と徴兵令¹⁸⁷³

山県有朋らの建議により発せられた。

国民のすべてが兵役に服する義務を負うという国民皆兵の原則にもとづく。

徴兵を嫌った庶民は、他人の養子となって免役を得ようとした（徴兵養子）。

徴兵告諭の文字（「血税」）の誤解と新政府に対する不平不満が結びつき、各地に血税一揆も発生した。



▲青年たちを徴兵検査場へ連れていく戸長

「四民平等」からみえる維新の限界

①明治維新の主要課題は自由や平等ではなかった。

⇒列強と対抗しうる近代国家形成がメイン。

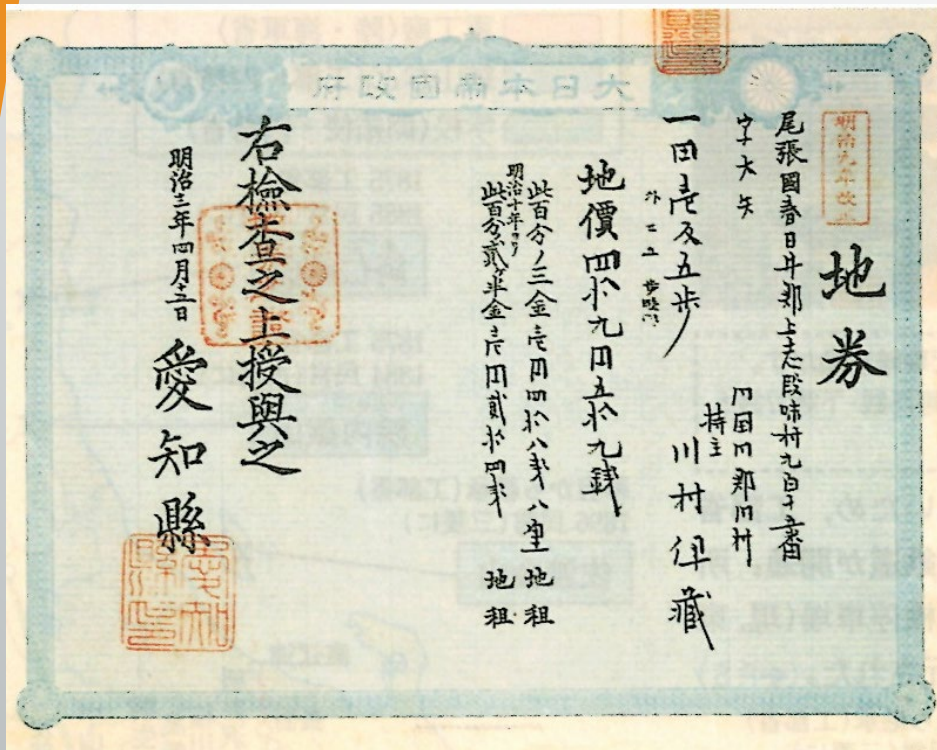
②「四民平等」は、近代国家の形成（軍隊の形成、資本主義化など）の必要性から実施された面が大きい。

③目的からみて不要な、その障害となる改革は実施しない。

⇒「自由・平等」「人権」などはスピードを遅らせる。

⇒こうした課題は、自由民権運動などで問われる。

Ⅵ,地租改正 ～「百姓」が農民に変わっていく



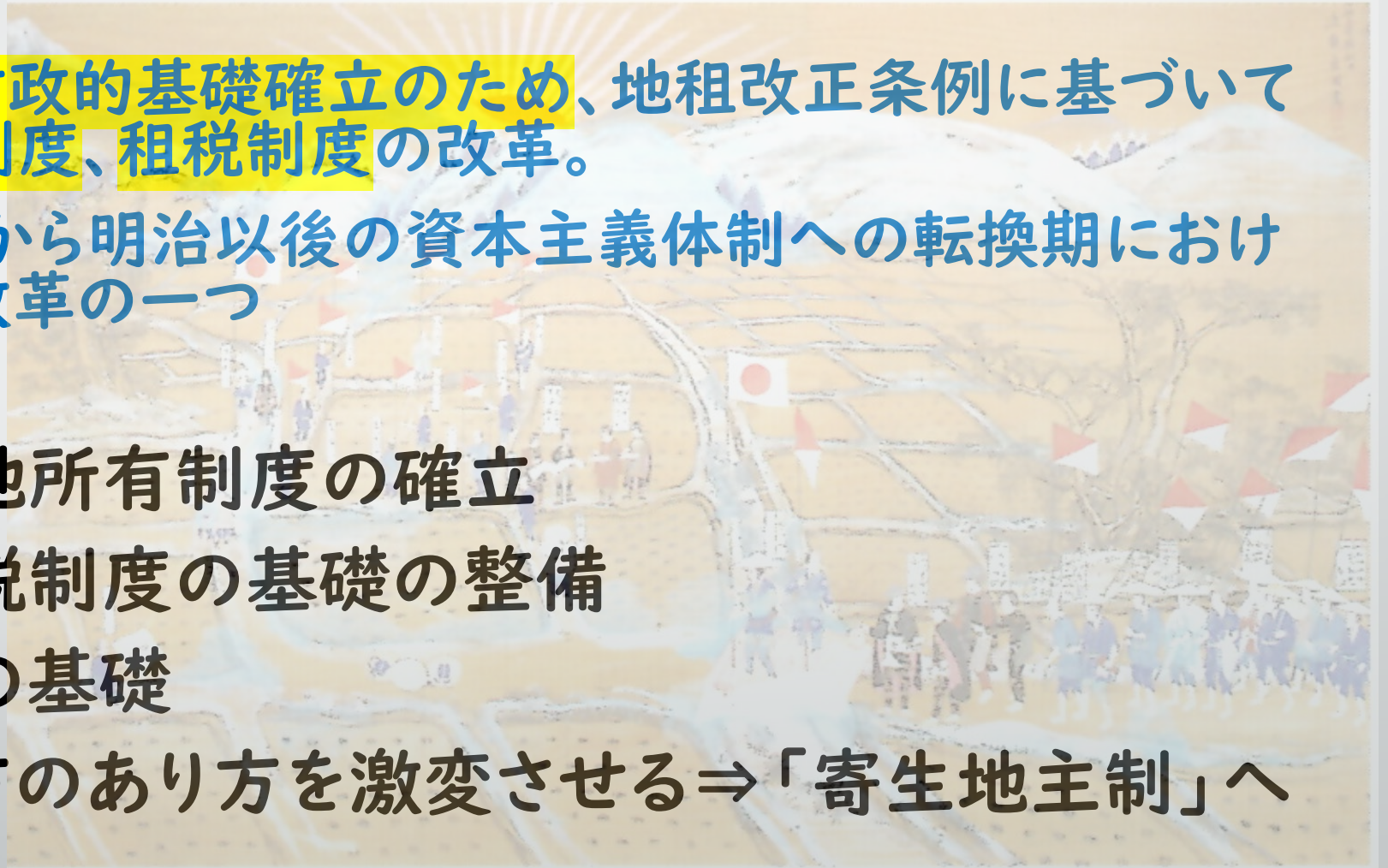
「百姓」から農民へ 地租改正(1873~81)

明治政府が、**財政的基礎確立のため**、地租改正条例に基づいて施行した**土地制度、租税制度**の改革。

徳川封建体制から明治以後の資本主義体制への転換期における最も重要な改革の一つ

<主な内容>

- ①近代的土地所有制度の確立
- ②近代の租税制度の基礎の整備
- ③財政制度の基礎
- ④農民=地方のあり方を激変させる⇒「寄生地主制」へ



地租改正・村請制廃止→農村の激変へ

- ①「村請制」の消滅＝「村」は助けられないように！
- ②地租は個々の農民が支払う＝払えないのは「自己責任」！
- ③有力農民（旧「村役人」層）の責任が軽減される
村民へのドライな対応や収益を求めることが許される
- ④地租の金納化＝収穫物の売買 → 貨幣経済の浸透
- ⑤土地の自由売買＝土地の流動化＝貧富の差の拡大
- ⑥共有地＝「入会地」の喪失→再生産のサイクルが壊れる。

近世農村の解体

～松方デフレ(1881～)

松方デフレ(1881～)

＝農産物の価格暴落、一転農村不景気に

- ①税金や借金の返済できない農民が大量に発生
- ②有力地主の出現＝農業収益よりも地代収入へ
⇒「寄生地主制」の形成

都市への人口流出

- ①エリートとしての上京（「三四郎」型）
- ②都市貧民層への流れ

VII, 「文明開化」と『日本人』の創出



「文明開化」一般的な説明

明治初年，政府の西洋近代文明の摂取による近代化政策から生じた社会風潮

明治政府は富国強兵・殖産興業の政策をとり、
欧米の近代的技術・制度・風俗習慣などを積極的に移入した。

近代的工場・鉄道・郵便制度・銀行制度・学制・散髪
廃刀などはその例である。（下略）

（「旺文社日本史辞典」より）

文明開化の実際

①生活の洋風化（「開化」物）＝大都市中心

シャボン、ランプ、洋傘、シャッポ、洋服や洋館、
ガス灯、和洋折衷建築、牛鍋

②「開化」政策

近代的工場・鉄道・郵便制度・銀行制度・学制

・散髪（散ぎり頭）・廃刀・太陽暦・新たな祝祭日

③全国への波及＝新聞、雑誌、錦絵、

文明開化の宣伝教化の出版物、布達や教導職、博覧会

文明開化といえは

ザンギリ頭を叩いてみれば文
明開化の音がする



髪型は身分を示す
標識でもあった。

銀杏頭



チョンマゲ頭を叩いてみれば
因循姑息の音がする

因循姑息（いんじゅんこそく）
古い習慣に頼って、その場をしのぎと
すること。また、そのさま。

文明開化の風景～新潟県令楠本正隆

裸体禁止・断髪強制、道路の清掃・拡張、都市中心部からの藁屋敷の撤去など風俗取締を積極的に進める。

他方、役人と人民の席の高さを同じとし、人民の話をよく聞く良吏でもある

楠本はもと外務省の官僚

これまでは“下賤のもの”が華美に流れることが問題。

楠本の論理

外国人が見て、「野蛮・未開」と思われるような状態は許されない。

→民衆も「日本を構成する一員（＝「**国民**」）」なのだから

欧米人＝「文明」の目を強く意識する（「世間体」の国際版）

欧米人の二つのまなざし

◎横浜に到着せる頃、裸体者の多きに実に驚けり、遠方より一見すればほとんどアフリカの黒奴に異ならず。初来の外人は皆不快の感を起こした。（グリフィス）

→男女混浴、立ち小便などが彼らを「不快」にさせ、日本人は公衆道徳が欠如する野蛮人である証明とみなされた。

→文明意識とは何よりもまず「自分たちの風俗がすぐれてい るという意識」であった。

◎彼らの無邪気、率直な親切、むき出しだが、不快でない好奇心、自分で楽しんだり、人を楽しませようとする愉快的意志は、我々を気持ちよくした（ブラック）

牧原憲夫「文明開化論」より

「文明開化」という名の風俗統制

廃藩置県→他藩（異なる地域文化をもつ）出身者の統治

外国人（文明国）の目を意識（文明＝野蛮）

“よそ者”の統治…気候風土や民衆の生き方に根す習慣への無理解

→“先進＝後進”意識、“治者＝被治者”（官尊民卑）意識に結合



規制の拡大＝刺青、道路や川への汚物投棄、荷車・人力車による通行妨害、春画販売、喧嘩の禁止など

民衆にとっての「文明開化」はまず、風俗（日常生活）統制、さらには「衛生＝不衛生」の強調としてあらわれた。

「二つのカベ」の撤去 ＝「国民」形成の基礎が形成される

①「日本」とみなした地域に住む人びとはすべて「日本人」！
＝近代での「国民」の基礎条件が形成された。

住んでいる所にか
かわらず、

サムライも、百姓町
人も、被差別身分も

「琉球王国」民も、アイ
ヌも、小笠原の西洋系・
ハワイ系住民も

<次の課題>

②日本人としての「義務」を負わせること

納税、兵役、教育の義務など

③国家の一員としての帰属意識を持つ＝教育・国家神道など
天皇の「臣民」として、国家のために死ぬる人間に

「国民（＝「日本人」）」の創出 「日本人」とは

同じ言葉（共通語）を話し

同じ物語（神話や「歴史」・将来像・理想像・正しい生き方）を共有し、

同じ民族であるという「感覚」を共有し、

「命を捧げてにもかまわない」という感情をもつ。

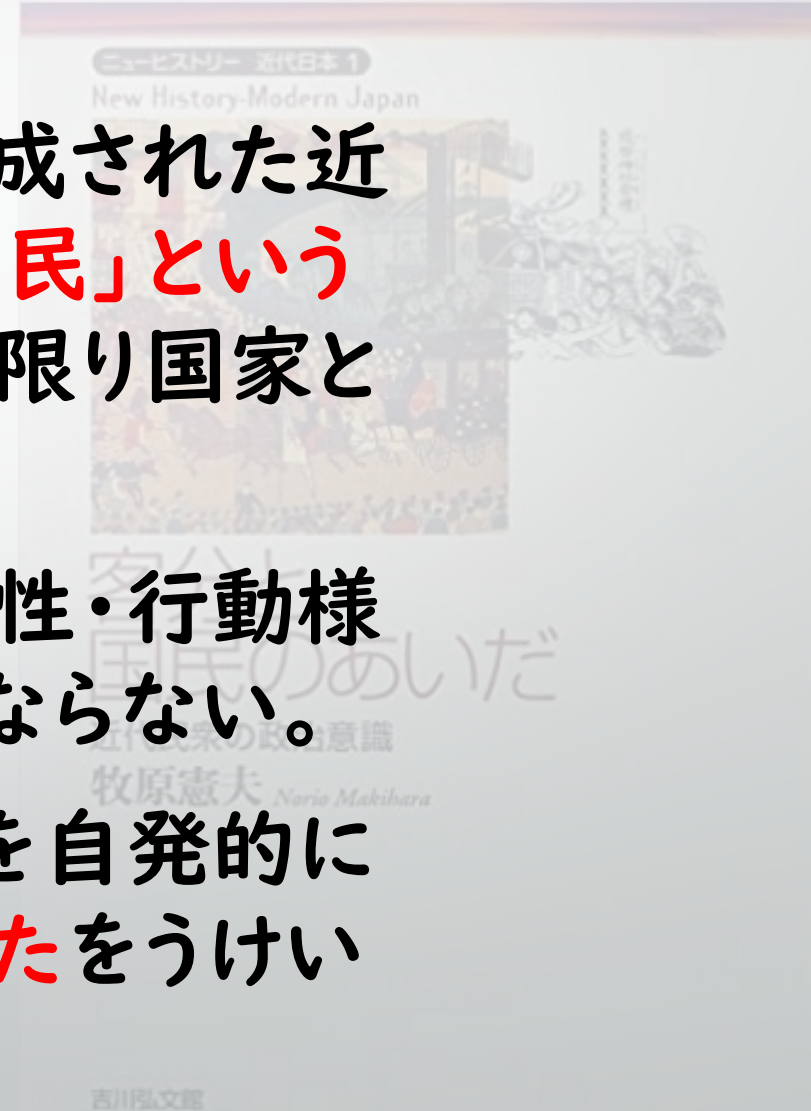
こうした日本人が明治に「創られ」、
日露戦争に兵士として参加した！

「国民」の形成（牧原憲夫の説）

多様な言語・習俗をもつ諸集団から構成された近代国家は、さまざまな差異を捨象し「国民」という同一性のものに人びとを統合できない限り国家としては確立し得ない。

→そのためには、民衆の非近代的な心性・行動様式（＝「客分意識」）を改変しなければならない。

→「国家のために死ぬこと・殺すこと」を自発的に受け入れ、“非国民”を排除するありかたを受け入れる。



「文明開化」翻弄される人びと



廃仏毀釈



散切り頭と廃刀令



徴兵逃れの指南書



太陽暦と新しい祭日



地租改正反対一揆

民衆にとっての「文明開化」 ～慣れ親しんだ世界の破壊～

これまでの『当たり前』の世界が、さまざまなレベルでくつがえされていく。

⇒得体の知れないことが進行しているとの不安と恐怖＝「新政府は異人が支配している」

<奇怪な噂>

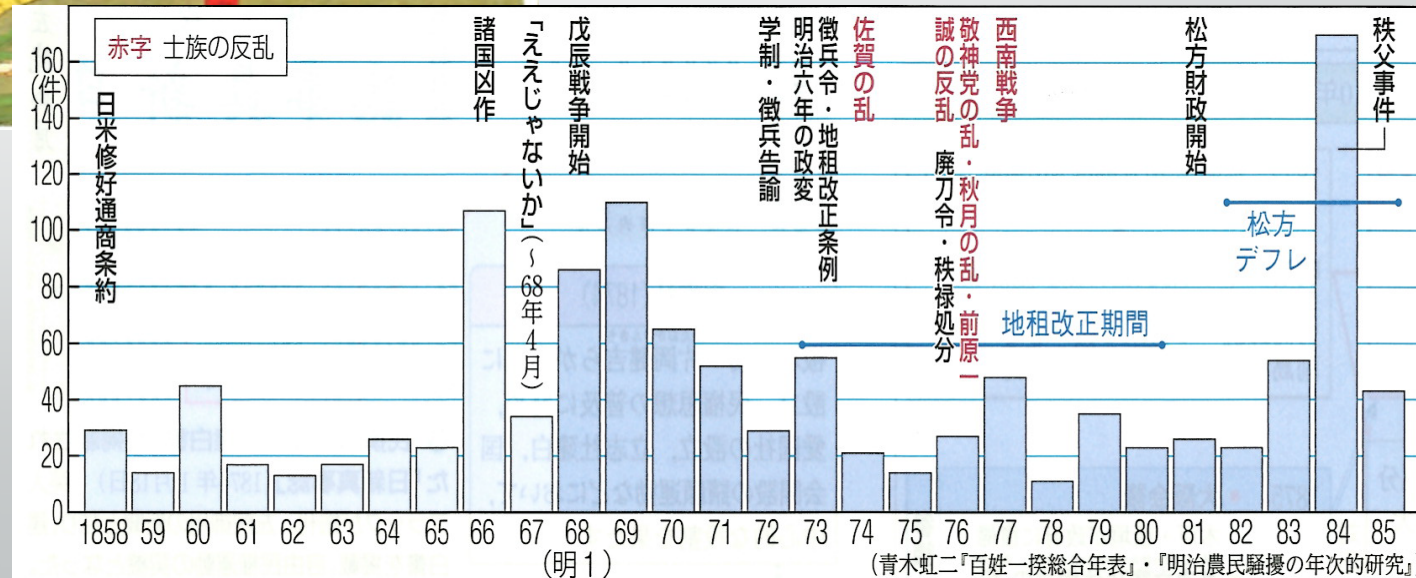
西洋式の病院では患者は鉄串の上で身体の脂を抜かれる

西洋人は小児の生き血を取って薬を練る

白衣のものが、子どもを誘拐し、外国人に売り飛ばす

頻発・大規模化する農民反乱

～江戸時代のルールは完全に失われる～



「文明」と「復古」

天皇中心のあり方を「文明」とみなす

神道国教化をめざし天皇信仰を強要

⇒それまでの信仰のありかたの多くを否定

神仏分離・廃仏毀釈=**仏教の否定**

山伏や虚無僧、祈祷師など民間信仰を淫祠邪教として禁止

神号を神話に合わせて変更させる=伊勢神宮中心に**神社を系列化**

新たな「神」（織田信長など）の採用=**天皇との関係性を重視**

太陽暦（+皇紀）の採用

天皇中心の祝祭日の制定と五節句の廃止、盆踊りなどの禁止

キリスト教弾圧

神道国教化から国家神道へ

- ① **神道の国教化政策**…日本人をすべて「神道」＝天皇教の信者に
⇒ 神仏分離令、神祇官⇒教部省設置、キリスト教弾圧など
- ② 天皇中心の日本が「文明」、民間信仰は淫祠邪宗＝「未開・野蛮」
- ③ 「信仰」は上から都合良く作れるものなのか？
⇒ 「神道」の教義の未熟さを、仏教徒とくに真宗教団が批判



- ④ 政府の方針転換＝「**神道は宗教でなく、日本古来の伝統**」と主張
宗教（仏教・キリスト教・教派神道）と神社信仰は矛盾しない
＝**国家神道の成立**

天皇像の変化～江戸時代の天皇

江戸時代、天皇は、人々の前に姿を現わさなかった。

必要なときもすだれごしに話を聞く。

御所の奥深くにいて、女官や少数の公家に囲まれて暮らす。

政治や社会、軍事などとも基本的には無関係。

外の話は取り巻きの公家を経由して聞く。



明治天皇の変身・東京奠都

- ・列強外交団との謁見(1868年2月)
→信任状を受け取る「**国家元首**」
- ・大坂巡幸…大久保らと面会
- ・東京奠都…**宮廷勢力から天皇を切り離す。**
- ・「忠臣」「孝子」に褒賞を与える
= **慈愛に満ちた天皇像**
- ・宮中から仏教色を一掃
火葬から土葬に、位牌の撤去
= **現人神・「万世一系神話」**
- ・「**大元帥**」化…侍従などに
マッチョな「武士」をあつめる



近代的君主としての「天皇」に

- 新しい時代の天皇像を演出
 - ・ 日本を代表する近代的君主。主権者。
 - ・ 軍隊を率い、国民に命令を下す絶対的な君主（**軍服**）
 - ・ 外国使節とともにワインを飲みかわし、肉などの洋食をとる文明開化の推進者（**洋装**）
 - ・ 「皇祖皇宗」からの「万世一系」の日本の神話的支配者（**衣冠束帯**）

◎維新政府・明治政府の正当性を保障する存在

⇒天皇の信任により、政治的・軍事的リーダーは正統性を得る。



文明開化のなかの「国民」

明治の「日本人」は、二つの「文明」を求められた。

- ①欧米文化の立場からみた『文明国の国民』となる
- ②「天皇に忠誠を尽くす」とのあるべき日本人となる

天皇は欧米文化導入の担い手としても位置づける
＝「文明開化」のトップランナー

⇒この観点から

人びとの生き方・伝統文化、風俗・習慣などが

「文明」か、「未開」「野蛮」か、判断されていく。

おわりに

～現代と明治維新、どう考えるか～

- ①中央集権と地方分権
- ②江戸時代をどうかんがえるのか。
- ③開国に際し感じた危機感・屈辱感は？
- ④維新政権の性格はどのように変遷したか？
- ⑤士族はどうなった？
- ⑥「近代」＝明治維新は評価に価するのか？
- ⑦以後の日本、さらに現在に与えた影響は？